

えん+じん

発行:
多賀城市市民活動サポートセンター
(たがさぽ)

第12号【毎月1日発行】

発行日:平成24年9月1日

被災地で生活している方、復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。



○「えん+じん」発行終了のお知らせ○

「えん+じん」は、特別な支援や緊急的な支援を必要とする方へもれなく情報を届けることを目的に、平成23年9月から多賀城市内すべてのお宅へ配布してきました。

震災から1年半が経ち、「えん+じん」創刊時と比べると市内での震災に関わる特別なニーズや緊急的なニーズが減っていること、また、それらに対応する団体自身が情報を発信していく環境が整ってきたこともあります、「えん+じん」の全戸配布は今回で終了することになりました。

今後のたがさぽの情報発信についての詳細は、P 4をごらんください。

もくじ

P 1 …「えん+じん」発行終了のお知らせ

P 2, 3 …これまでの「えん+じん」からピックアップ 復興活動ヒント集

P 4 …保存版 NPO相談窓口

住民が主役の復興に向けて ~たがさぽの情報発信が変わります~

これまでの「えん+じん」からピックアップ 復興活動ヒント集

「えん+じん」には、復興に関わるきっかけや活動のヒントが詰まっています。今回は、これまでの記事をピックアップし、内容をご紹介します。復興に関わりたい方、活動のアイディアがほしい方はぜひご活用ください。

もりあげる

復興に向けて多賀城を盛り上げていく活動です。



ママたちの底力

LOVE tagajoプロジェクト

平成23年11月発行 第2号

多賀城に住むママたちがつながりを活かして、駅前でのマルシェや市内の避難所、お店、文化センターでのサックスライブなど、イベントを企画しました。ママたちならではの視点やネットワークは、多くの若い世代の関心を集め、LOVE tagajoの輪が広がっていきました。現在、LOVE tagajo プロジェクトの活動は終了しましたが、メンバー各々がつながりを活かして今もまちを盛り上げています。

日常を取り戻すための音楽祭

市民音楽祭を開催する会

平成23年12月発行 第3号

多賀城では、年に1回市民音楽祭が開催され、音楽活動に取り組むサークルの発表の場となっていました。しかし、震災により音楽祭は中止となってしまいました。そこで、サークルメンバーが集まり、自分たちで手づくりの音楽祭を開催しました。これまで続けてきた行事を市民の力で震災後も継続していく、多賀城に日常と元気を取り戻していくことが被災地で暮らす人々にとっての復興につながります。

市民がつなぐ復興への灯

T.A.P多賀城

平成24年1月発行 第4号

毎年恒例の多賀城駅前イルミネーション「悠久の詩都(まち)の灯」。震災後の冬も変わらず実施されました。保管していた電球28,000個のうちの12,000個が津波によって失われた中、市民から募った寄付を活用し、45,000個の電球を灯すことができました。また、事前準備や点灯式での手拍子とカウントダウンにも市民に参加してもらい、より「みんなでつくるイベント」という想いを共有できるようにしました。

ふりかえる

震災の経験を市民が記録し、ふりかえることによって防災に役立てます。



市民のチカラで記憶する記録

NPO法人20世紀アーカイブ仙台

平成24年5月発行 第8号

20世紀アーカイブ仙台は、震災時の想いや出来事を後世に残していく取り組みを行っています。記録するのはプロのカメラマンではなく市民です。デジタルカメラや携帯電話のカメラ機能などを使って撮られた数々の写真は、報道とは異なる「わたしたち」目線の記録として、被災地の状況を伝えています。

みんなの声から地域の防災を見直す

新田中親交防災防犯部

平成24年5月発行 第8号

新田中区で防災に関するアンケートが実施されました。震災を通して考えたこと、見えてきたことを地区の住民にふりかえってもらい、今後の防災に活かすことが目的です。アンケートから、地区で本当に必要なことを明らかにし、防災訓練、応急訓練を見直すヒントとして活用します。

よりそう

継続して被災者に寄り添い、被災者とともに復興に向かいます。



被災者に寄り添う支援

多賀城市社協復興支えあいセンター

平成24年7月発行 第10号

復興支えあいセンターは、震災直後、仮設住宅入居後、そして現在と被災者の状況に合わせて支援の内容を変えてきました。平成24年7月からは仮設住宅内に拠点を移し、在宅被災者も視野に入れた支援を行っています。

総合拠点：国府多賀城駅南地区応急仮設住宅

仮設支援TEL : 080-5949-7500 地域支援TEL : 080-5949-7501

子どもの心を受け止める地域をつくる

やましたさんの工作教室、プラン・ジャパン

平成24年8月発行 第11号

避難所や仮設住宅で暮らす子どもたちは、まわりの大人に気を遣い、思う存分遊ぶことができませんでした。やましたさんの工作教室は定期的な工作教室、プラン・ジャパンは「子どものためのスペース」の運営を通して、不安やストレスを抱える子どもたちに寄り添った活動をしています。



つくる

地域のことは住民自身が決め、住民の手でまちをつくっていく活動です。



ココから始めるまちの復興

延藤安弘さん

平成23年10月発行 第1号

阪神淡路大震災の被災地で住民主役の復興に取り組むNPO法人まちの縁側育み隊の代表理事延藤安弘さん。大代地区公民館にて住民主体のまちづくりや人のつながりを生む集合住宅の事例などを紹介しながら、復興を進めるための5つのポイントをお話しいただきました。その頭文字をとると「たがじよう(多賀城)」となります。多賀城の復興に必要なことが延藤さんからのエールとともに私たちへ送られました。

自分たちのことは自分たちで決める 城南仮設住宅自治会

平成24年3月発行 第6号

国府多賀城駅南地区仮設住宅では、ニーズに合った支援が受けられない現状に課題を感じ、自治会を結成しました。はじめてだらけのことでしたが、周辺自治会やNPOに支えられ、活動を続けてきました。イベントの実施や花壇づくりを通して交流が生まれ、また、仮設住宅での決めごとは住民同士で話し合い、決めていくことができるようになりました。復興には、住民の支えあいが必要です。

みんなでつくる住みよいふるさと 大代地区コミュニティ推進協議会

平成24年4月発行 第7号

大代地区コミュニティ推進協議会は、地区的住民同士の交流を深め、地域課題を住民の力で解決していくために昭和61年に結成されました。震災後は、これまで以上に住みよいふるさとをつくっていくために、事業やイベントの企画の仕方等を学び、話し合いを重ねながらアイディアを出しています。8月には、大代地区公民館開館セレモニーを主催し、地区の復興に向けてまた新たな一步を踏み出しました。

つながる

同じ地域に住む人や同じ立場の人人がつながり、支えあう地域をつくります。



普段からの情報収集・交換が役立った

八幡公民館

平成24年2月発行 第5号

震災直後、八幡公民館は避難所となりました。震災前から区長と民生委員で地域の情報交換の場を設け、つながりをついていたこともあり、必要な物資をもつ住民をスムーズに見つけることができました。また、八幡の5地区の区長が毎日集まり、避難所運営についての話し合いや状況把握を行っていたそうです。普段からのつながりや小まめな情報交換が災害時に大きな力となりました。

ママたちの声が子どもを守る

放射線被曝から子どもを守る会・多賀城

平成24年6月発行 第9号

放射線が子どもに与える影響について不安を覚える多賀城のママたちが中心となり、放射線被曝から子どもを守る会・多賀城を立ち上げました。「多賀茶会」という交流や情報交換を行う場をつくることによって、不安を一人で抱え込まず、同じ悩みを抱えるママ同士がつながるきっかけとなっています。子どもを想うママたちが声をあげることによって、少しずつ地域や社会を変えていく力となります。

活動を通して絆を育む子どもたちの居場所

塩釜子ども劇場

平成24年3月発行 第6号

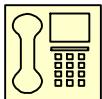
舞台鑑賞を通して子どもの感受性や創造性を育むことを目的として活動する塩釜子ども劇場は、事務所が津波の被害を受けました。しかし、小さいころから活動を続けていた学生や青年たちの協力もあり、震災から3か月後には舞台イベントを再開することができました。大人たちだけでなく、子どもたちも一緒に運営を担う子ども劇場は、仲間との絆を育むかけがえのない場所となっています。

サタデーモーニングカフェで気軽に地域交流

東田中南自治会

平成24年7月発行 第10号

集合住宅のみで構成された東田中南自治会では、住民が孤立しないよう土曜日の朝に朝食会を開催しています。メニューは評判のパン屋のパンと挽きたてのコーヒー。朝に開催することによって、女性や年配の方も参加しやすくなっています。また、プログラムを設げず、好きな時間に気軽に参加できるよう工夫されています。この朝食会によって、住民同士に新たなつながりが生まれています。



保存版

NPO相談窓口

困りごとや悩みごとに応じるNPOの相談窓口をまとめました。

よりそいホットライン 一般社団法人社会的包摂サポートセンター
仕事、生活、心、家庭、病気、お金など、さまざまな悩みや不安ごとの相談に応じます。

TEL:0120-279-338 24時間対応

被災者専用人権ホットライン NPO法人World Open Heart
いじめや差別を受けた、性的嫌がらせを受けた、トラブルに巻き込まれた等、人権に関してお悩みの被災者への相談窓口です。

TEL:022-398-7129 午後1時～午後5時 月～金曜

ママパンパライン NPO法人せんだい杜の子ども劇場
子育ての悩みや不安な気持ちを抱えた方のための相談窓口です。専門の研修を受けたスタッフがあなたの気持ちを受け止めます。

TEL:022-773-9140 午前10時～午後4時 金曜

FP広報センター NPO法人日本FP協会
生活者からのくらしとお金に関する疑問や質問に、資産設計の専門家が電話でお答えします。

TEL:0120-211-748 午前10時～午後3時30分 月～金曜

酒害相談 NPO法人宮城県断酒会
お酒に関する問題でお悩みの方、もしくはその家族の方を対象に、酒害相談に応じています。一緒に解決の道を見つけていきましょう。

TEL:022-214-1870 午前10時～午後5時 月～金曜

東日本大震災 心の相談電話 東日本大震災心理支援センター
震災により悩みや問題を抱えた方や支援活動に関わる方の精神的なサポートを行います。

TEL:0120-719-789 午後7時～午後9時 月・火・木・金曜

パープル・ホットライン NPO法人全国女性シェルターネット
災害、暴力被害、生活のことなどさまざまな悩みごとを相談できる女性専用の電話窓口です。適切な支援者へつなげます。

TEL:0120-941-826 24時間対応

チャイルドライン NPO法人チャイルドライン支援センター
学校のこと、家族のこと、いじめのこと等悩みや不安を抱える子どもの相談窓口です。どんな話でも安心して相談ください。

TEL:0120-99-7777 午後4時～午後9時 月～土曜

被災地障がい者センターみやぎ
障がい者自身が運営する障がい者のための相談窓口です。同じ障がい者の視点に立って生活をサポートします。

TEL:022-746-8012 午前10時～午後6時 月～金曜

認知症介護に関する相談 公益社団法人認知症の人と家族の会
認知症の方の介護は、経験をしてみないと、大変さが分からずと思いません。介護経験者が応じますので、お気軽にご相談ください。

TEL:022-263-5091 午前9時～午後4時 月～金曜



住民が主役の復興に向けて ~たがさぽの情報発信が変わります~

震災復興応援情報誌「えん+じん」は、今回で全戸配布を終了します。「えん+じん」は昨年の9月から毎月26,000部発行し、情報を得にくく被災者や支援者・支援団体に対してNPOやNGOなど民間の情報を届けました。これまで「えん+じん」がきっかけで被災者と支援者・支援団体がつながった事例や支援団体同士がつながった事例など、大きな成果をあげてきました。

たがさぽは、平成24年度の方針の一つとして「さまざまな形で情報発信する」ことを掲げています。今後は、被災者・被災地に民間の支援情報を提供しつつ、市民が主役となってお互いを支え合っていくような復興・まちづくりを実現するために、市民活動、NPO、ボランティア、自治会・町内会に関する情報を発

信していきます。特に情報誌とウェブをより効果的に組み合わせることで、活動に役立つ情報をすばやく正確に届けていきます。

- ・ **情報誌**：コラムや書評、イベント紹介などコーナーを充実させ、より親しみやすい誌面を心がけます。
- ・ **ホームページ**：特設サイトを設置し、NPOやボランティア活動をやってみたい方に具体的な手法と事例を紹介します。
- ・ **ブログ**：助成金や講座のお知らせなどすでに活動している団体に役立つ情報をいち早く提供します。
- ・ **Twitter**：上記の情報をより広範囲に届けます。
今後もたがさぽが発信する市民活動、NPO、ボランティア、自治会・町内会などに関する情報をご活用ください。

○「えん+じん」バックナンバー○

たがさぽホームページにてバックナンバーをダウンロードすることができます。また、ご希望の方はたがさぽ窓口にてお渡しします。

ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>

□発 行：多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)

電話：022-368-7745 FAX：022-309-3706

ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>

スタッフブログ：<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

Twitter アカウント:@tagasapo

□編 集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター